

# 豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

43

## 1 施策の概要

1-1 施策の名称	情報の共有			基本施策コード	5 1 1
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習	評価票作成者 生涯学習課長 近藤雅彦
1-3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」			
	項	参加と協働			
1-4 施策の目的	市民と行政が情報を共有し、協働して住み良い町づくりをする				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	B	
総合評価	B	

施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているので継続する
- B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期(平成18年度~平成22年度)			全期間(平成23年度~平成27年度)			指標の定義
		目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
	市民向けパソコン教室の参加者数(人)	200(人)	81(人)	40.5(%)	200(人)			
	市民向けパソコン教室の開催回数(人)	10(回)	6(回)	60.0(%)	10(回)			

## 2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	パソコン操作に習熟した若年層が、家庭内講師をすることによりパソコンは、もっと一般的になる。	パソコン操作の基礎講座とともに、若干の応用講座を継続して開催する。	少なくとも160人の市民が不利益から遠ざかったと思う。
平成19年度	〃	基礎講座開催の需要は底を打ちつつあり、今後、講座回数について見極める必要がある。	基礎講座の開催回数を減らしたが、順調に講座開催が運営できた。
平成20年度	行政によるデジタルデバйд対策は、財政難の状況にあっても必要である。	基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。	基礎講座の開催回数は前年度並みとしたが、中級講座を開催し、市民の要望に対応した。
平成21年度	今後は、デジタルデバйд対策ではなく生涯学習の一部として捉えていく。	基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。	費用削減のため、開催講座数を減らしたが、抽選での当選確率は、前年度と対比してに大きな変動はなかった。
平成22年度	今後は、デジタルデバйд対策ではなく生涯学習の一部として捉えていく。基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。生涯学習講座として初級レベルの講座を設け、高齢者のニーズに答えた。 【評価がBの理由】生涯学習課では、パソコン講座を開催し、高齢者などIT機器に触れる機会が少ない市民を対象に、基礎的な操作の取得を目標としている。しかしパソコン操作の取得だけで「情報の共有」が図れるのか不明である。 【改善方向の指示】デジタルデバйд対策としてのパソコン講座については、基礎講座に重点を置くとともに、参加と協働の視点からもPPP(官民協働)の可能性を検討すること。		
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

